

第585号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



たかぎ

発行日 2017年12月15日
 発行責任者 喬木村公民館 長 徹
 市 瀬
 編集責任者 公民館編集部 長 志
 仲 田 久
 印刷 龍共印刷株式会社

平成29年度 第3回平和学習会

下伊那の戦争の歴史を訪ねる

平岡ダム・飯島発電所見学に参加して

昨年度の平和学習会で「知っていますか？日本の戦争遂行のために犠牲になつた外国人労働者がいたこと」というテーマで飯田歴史研究所調査研究員の原英章先生に講演をして頂き、今回は実際にその現場に足を運んでみるという企画でした。

十一月十二日澄み渡る秋空の下、最初の見学地である平岡ダムを目指して二十三名の参加者と共に出発しました。山間を走る道中は、青空と様々な色づいた紅葉のコントラストが目を惹かせてくれました。

これが戦時下の物資も労働力も不足している中建設されたことを思うと、いかに困難なことであつたかは想像に難くありません。そして不足している労働力を補うための外国人労働者は、その数朝鮮人二〇〇〇人、連合国軍俘虜常時二〇〇〇、三〇〇人、中国人八八四人。これらの人々が自らの意思を曲げられ、粗悪な衣食住をあてがわれ、戦争遂行のために急ピッチで進められたダムの建設に従事させられたのです。病に伏し、死に至つた人の多くは栄養失調だつたという原先生のお話を聞いた時、戦死した日本兵の多くがそうであつたという事に重なり、こ

もある意味「戦場」だつたのではないかと思ひました。共同火葬場は、そのダム建設で亡くなつた人達が火葬された所で、小高い山の中腹にありました。火葬場と言つても何かあるわけではなく、ただその場所を使つたというだけの事です。雨の翌日ということもあつて、足元に気を使いながら登りました。現在はここを訪れる人のために手すりや設置されていますが、当時はそれも無く、まして仲間の亡骸を担いで登つたこと、中にはまだ息がある方までがいたこと、そして燃料の薪も貴重な為、焼き切れない遺体は谷に投げ捨てたことを聞くと、そのやるせなさを深く思ひました。戦争

は様々な局面でひとがひとらしくあることが難しくなっています。天龍中学の校庭には当時連合国軍の俘虜収容所がありました。現在は二〇〇〇年に建立された鎮魂碑がその事実を伝えてくれます。その鎮魂碑の裏面に刻まれた英文には「以下に記されているのは収容所の日本人職員が食料や医薬品を抱え込み俘虜に与えなかつたために亡くなつた俘虜たちの氏名である。」とありました。実際に虐待と言えような暴力もあつたようで、戦後横浜B級及びC級裁判において厳しい判決がくだされたようです。そういう中であつて周りの職員に非難されながらも俘虜の人達が「彼は俘虜に対していつも親切で、決して私達の物を取ることなく、また決して暴力をふるわなかつた。」と裁判関係者に証言し、戦犯に問われなかつた職員がいた

寄りました。現在は、観光用に様々な展示物と共に開放している校舎の教室の黒板に、椋鳩十先生の詩が書かれています。



参加者の皆さん 木沢小学校にて

多くの人が苦しみの中であつたあの秋も、きつと今日のような美しい青空と紅葉が人々を優しく包んでいただろうことを思い、私たちが大切にしたい尊いものがこの詩にあらわされているのだからしっかりと心に刻むようにと、今日一日の全てから論されているように感じました。ただ、当たり前のように思つたこれらを守るには、今は努力が要るのだとあらためて思うのです。

あこの時
 八百長事件、朝青龍の暴行事件などの影響で、一時低迷していた大相撲人気。十九年ぶりに誕生した日本人横綱稀勢の里や木曾出身の御嶽海の活躍で、人気は復活したと思つてきた。しかし、鳥取巡業中に起こつた暴力事件は、折角戻つた大相撲人気に水を差しかねない。

御嶽海は、今年一年の六場所すべてを勝ち越し、三役に定着した。来年は大関挑戦の年になる。長野県人にとっては楽しみな一年になりそう。御嶽海の活躍で、元東の関脇、喬木村出身の「高登」も、再び話題になつてきている。

九州場所も御嶽海を取り組みを楽しみに見ていたが、最近引くことが多くなつた気がする。勝つても決まり手は引き落としやはずれ込みが多く、引きにつけ込まれてあつさり負けてしまつことも目立つ。幕内が上がつてきたころの前に出てむしやりに攻める相撲を取り戻してほしい。必死に前に出て攻め続ける相撲は体力的にきつい。引き技が決まれば省エネで勝てる。私には、薬をして勝とうとしていように見えてはいたが、ない。

相撲だけではない。タイミングや細かな配慮は必要だが、要領よく物事をこなすのではなく、苦勞しても正攻法ですめる。この方が私は大事だと思つた。御嶽海の奮起に期待する。今年も残り僅か。みなさん、良いお年をお迎えください。

(館長)

椋鳩十ものがたり 49

『椋鳩十全集』 掲載作品

椋鳩十顕彰会 久保田 毅

椋鳩十全集四

「天空に生きる」その五

昭和四十四年十一月

源次は、上田に出かけて、若いワシたちを一人の力でしめたいと考えます。

上田の人々は、ニワトリや子ネコをさらっていくワシをいまいまいやつたと考えています。だから、にくらしいワシが源次の鉄砲により、すう

と空を落ちてくるのを待っているのです。

「…今までの経験で、ワシはその後をおっかけまわしたのでは、射とめることはできない…ワシのほうから…近づいてくれるのを待つことにした」

ワシは小犬をさらつて舞い上がりまわす。ワシの目でもまぢぶせる源次に近づきません。

「源次の銃口が火をはいた。ギヤアという叫び声をあげる」と一羽のワシは…飛びさつていった。もう一羽のワシは…丘のほうにつっこんでいった。…ワシは、一方のつばさを大きく広げて倒れていた」

源次は、死んでしまったのかと思ひながら見つめた。若いワシはつばさを大きくはばたかせ、むつくりと立ちあがります。

「金色に輝くような目で、わびれるようすもなく、源次をまっ正面からくいとにらみつけた。…人間どもにまけてたまるか！といった野に住むものの、もえるようにはげしい負けん気をしめす、たくま

しいワシのすがたであつた」

源次は「よし、くる気か」といひ、狐銃をさかさまにもつてふりあげるのです。人間とワシの闘いが



「傷ついたワシは、しだいに弱つていった。源次は、ワシの上に着るのになつて、フジづるで、くるくるとしぼりあげた。…それでもワシはワシであつた。目だけは、かっと思ひました。

ひらいて、もえるような金色のひとみで、じつと源次をにらみつけているのである」

こんなになつても、負けたというようすを示さないワシに胸をうたれ、好きになつていきます。

ニワトリ小屋を作りなおし、その中でワシを飼うことにします。

「…えさを投げてやっても見むこうともしない。首をしゃんと立てて、金色の目で、あたりをにらみつけているだけである」

こんなことが続けば死んでしまふかもしれない。何とかえさを食べさせようと、えさを投げ入れたり、棒の先に肉

「二か月ほどたつと、源次の目の前でえさを食べたのである。…源次はすっかりうれしくなつてしまつた」

源次は、ごちそうを持つてきたぞと声をかけたりします。また、えさを前につき出して、小屋の中に入つていきます。あげておそいかかつてきます。しかし、源次は、ワシのかかりのなかから、空の王様らしさや尊敬の念を感じるのでした。

「二か月ほどたつと、源次の目の前でえさを食べたのである。…源次はすっかりうれしくなつてしまつた」

源次は、ごちそうを持つてきたぞと声をかけたりします。また、えさを前につき出して、小屋の中に入つていきます。あげておそいかかつてきます。しかし、源次は、ワシのかかりのなかから、空の王様らしさや尊敬の念を感じるのでした。

第30回 椋鳩十夕やけ祭

・記念講演「椋先生との出会い」原田泰治先生
・椋鳩十賞読書感想文コンクール表彰式

椋先生との出会い 第三十回 椋鳩十夕やけ祭

椋鳩十記念館・図書館長 大原 文男

第三十回「椋鳩十夕やけ祭」が十一月二十五日(土)に福祉センターにおいて開催されました。毎年「夕やけ祭」の日は天候に恵まれていますが、椋鳩十没後三十年に当たる今年も、夕やけが広がる穏やかな日となりました。

喬木第一小学校合唱部の美しい歌声に合わせて椋鳩十作詞「心の海」を全員で歌う感動的なオープニングが続いて、「第三十回椋鳩十賞読書感想文コンクール」の表彰式がありました。

本年度は特別賞として「三十回記念賞」と、今回で終了となる一般の部に「功労賞」が贈られました。

小学生から一般まで県内外から六五六名の応募があり、喬木村からは栄えある「三十回記念賞」に輝いた羽生彩華さん(第一小五年)が、受賞者を代表して『大造じいさんとガン』の感想文、「残雪の勇姿」を発表しました。

椋鳩十記念館制作の大型紙芝居『生きておったんな!』の上演に続いて、三時から「椋先生との出会い」と題して画家の原田泰治さんの記念講演会がありました。

椋先生を師と慕っていた原田さんが、突然鹿児島椋先生の所へ自分の描いた作品を持って会いに行った時のエピソードはおもしろく、その後の二人の絆を深めるきっかけとなりました。

鹿児島での椋先生のおもてなしに感激した原田さんは、今でも諏訪に訪れるお

客さんに対して、椋先生と同じように接しているそうです。一九八二年に朝日新聞の目撃版に「原田泰治の世界」を二七回にわたって発表しましたが、その仕事を受けるかどうか大変悩んで椋先生に相談した時の事も話されました。

椋鳩十賞 読書感想文コンクール表彰式



賞	氏名	学校・一般	学年
30回記念賞	羽生 彩華	喬木村立喬木第一小学校	小5
	安藤 帆乃	岐阜県恵那市立串原中学校	中3
椋鳩十賞	原 さとか	喬木村立喬木第一小学校	小2
	中嶋 航之介	奈良県奈良学園小学校	小4
	菅原 蒼樹	飯田市立伊賀良小学校	小6
	胡桃澤 彩音	喬木村立喬木中学校	中2
	谷口 卓生	岡山県美作市	一般
優秀賞	とくながそよか	諏訪郡富士見町立境小学校	小1
	宮澤 悠聖	喬木村立喬木第一小学校	小4
	中島 周平	飯田市立伊賀良小学校	小6
	田中 智絵	喬木村立喬木中学校	中2
	山本 真理子	鹿児島県始良市	一般



「毎週毎週旅して、文章を書いて絵を描くような連載は死んでしまふ」と、家族中が反対したことで、悩んだ原田さんは、椋先生に相談にいきまわって連載の仕事を受けました。先生に相談にいきまわって連載の仕事を受けました。先生に相談にいきまわって連載の仕事を受けました。

「大造じいさんとガン」 光村図書 喬木村立喬木第一小学校 五年 羽生 彩華



「大造じいさんとガン」 光村図書 喬木村立喬木第一小学校 五年 羽生 彩華

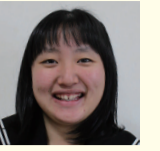
残雪の勇姿 ガンの頭領である残雪は利口なやつで、長年かきうをやって大造じいさんでも「うん」とうなづいてしまふ程です。群れの仲間には危険を知らせる以外に、えさのとり方や群れのおきて等も教え、信頼される存在なんだと思います。そして残雪も仲間をとて大切にしています。

「残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間がたがたがあるだけでした。」物語の中で、私が一番印象に残った場面です。「助けに行ったら自分も攻撃を受ける。だけどおれが戦わなければ誰か戦う? おれは群れの頭領だ。仲間には絶対におれが守る!」そんな残雪の強い意志が感じられて、私は心がふるえました。ハヤブサにおさわられたおとりのガンをじいさんは口笛で呼ぶしかできなかった。でも残雪は命をかけて守ったのです。仲間を救う、その思いだけを胸に、必死に戦う残雪のすがたが目につきました。



30回記念賞羽生彩華さんの発表

三十回記念賞



「山のえらぶつ」 理論社 岐阜県恵那市立串原中学校 三年 安藤 帆乃

深く深く愛しあうこと

市ノ瀬房吉さんは、三度の飯よりも狩りが好きなかりゅうどであつた。銃の引き金に指をかけた時、銃をうち、火薬のにおいを吸いこんだ時...

「かものひっこし」を読んで わたしは、「かものひっこし」という名を聞いて、かものかぞくがにもつをいっばいせおつて、なん日もなん日もよちよちと歩いてひっこしをするお話だと思ひました。

でも、読んでみると、かものおや子がしんでしまふんじゃないかと、どきどきするお話でした。 一ばんどきどきしたところは、かるがものかあさんがはやぶさにおそわれて、

た。がけに追いつめられたときも、房吉老人の向ける銃にびくりともせず、妻の前にそびえ立ち、命を落とした。「がけくずれ」にとつて妻は、命、人生そのものであつたのだ。

また、妻のめすジカも、夫である「がけくずれ」を深く愛していた。自分を守るために命を落とした夫を追いかけ、自らも命を投げたからだ。もしめすジカが「がけくずれ」のことを単なるポディーガードとしか見ていなかったら、こんなことはしなげらう。めすジカは、死ぬときは一緒にいたいと思ふほど、夫を深く愛していたのだ。

自分よりも大切だと思ふほど、誰かを愛する。誰かを愛おしいと感じる。 この世界に、これほどすばらしいことがあるだろうか。 房吉老人は、この深く大きな愛を目の前にして、「がけくずれ」を愛おしいと感じた。びくりにしたしうれしかったです。

わたしのおかあさんも、この前、じしんがきた時に、わたしたちの上にかぶさつてまもつてくれました。おかあさんは、いつもわたしたちをまもってくれます。かるがものかあさんも子どもをむな毛にかじりつかせてひっこしに空をとんでいました。人げんのおかあさんもかるがものかあさんもいっしょだと思ひました。

このお話を読みおわつて、わたしは、かるがものかあさんと子どもたちが、新しいいけでもなかくしていてほしいと思ひました。

くずれたちをただの動物だなんて思ふなくなつたと思う。だから、このすばらしい愛を自分の手で途切れさせってしまったことを後悔しているのだと思う。

きつと「がけくずれ」とめすジカは、二匹で谷底へ落ちていくとき、死ぬその直前まで互いを愛していただろう。いや、命が消えても互いを愛する気持ちは、二匹の魂となつて、ずっとそこに存在し続けるのだろう。二匹の愛情は、きつとこの先もずっと消えない。私には、そう感じられる。

「母ぐま子ぐま」 理論社 奈良県奈良学園小学校 四年 中嶋 航之介



に住む母熊が、自分の命より大事に思う子熊を、りょうしとりよう犬から、命がけで守り抜く物語です。 ぼくも、お母さんに助けられたことがたくさんあります。決して、命がけの戦いではないけれど、毎日の生活の中で、大きな挑戦をする時や苦しい事に取り組んだ時、ぼくにおそいかかる不安やあきらめそうになる気持ちから助けてくれます。時には、一緒に練習につき合ってくれることもありま

す。いつだって、最後まで、ぼくをばげまし、勇気づけてくれるのは、お母さんです。いつもは、おたやかで優しいお母さんですが、いざ、ぼくがくじけそうになつた時は、だれよりも厳しく、弱くなつていくぼくを守ってくれます。だから、ぼくは、どんな時でもあきらめずがんばることが出来ます。 四ひきのかり犬に追いつめられて戦っている時、次からつぎへと母熊をおそつてくるきようふは、はかりしれません。しかし、母熊が一番こわかつたのは、子熊をつかまえられる事だつたと思ひます。あの母熊が、子

ぼくとその仲間たちは三日間も狩りにおわつて、ぼくはこのカモシカの群れの大将の三匹のうち一匹だ。他のカモシカは小さく力も弱い。だが今ここでねむつ

てしまつて力は弱く小さいカモシカたちが自然界や自分、そして人間に与える大切なものを失ふことになつてしまふ。人間と狼犬に追われて過ごす間、ぼくたち大将はこのよう責任を負い、眠らずにあたりを見



喬木第一小学校合唱班による「心の海」斉唱



「底なし谷のカモシカ」 ポプラ社 飯田市立伊賀良小学校 六年 菅原 蒼樹

動物と自然

ぼくは、この物語の中で、カモシカのにげ方に興味を引かれた。カモシカは、岩だらけのごつごつした場所を好んでにげる。それはカモシカが一番得意であり、他の動物が苦手なにげ場だからだ。物語の中にこのような言葉があつた。「自然は、自分の子どもたちである罪のない動物どもを、こ

うしたにげ場で、そつと守つてやるのです。」ぼくはこの言葉を讀んでいざというときに生きぬけるかどうかは、自然のおくりものに気づけるかどうかということにかかつてはなないかと思つた。人間だつていそがしいときやうまくいかないときなどに、そのままにも考えずにやるのではなく、一度落ちついて周りの状況を再度見なおすとうまくいくことが多くあると思ふ。

ぼくが狼犬なら、自分の役目であるカモシカ大群を大まがりへと導くということをおぼえず、大群の方をおいかけたらと思う。理由はあんな大きな大将カモシカが仲間を見すてて自分のためにだけに道を外すわけがないし、たとえそうだとすも八匹もの狼犬に追われているカモシカたちに危険を知らせるため最終的には二匹とも大まがりになると思ふ

でも、この物語を讀んでいろいろなことを學んだ。その中でも大切なのが、人間は動物であり、カモシカも動物だということだ。そして、自然はすべての動物たちをむすびつけている親のような存在だということなのだ。そしてもう一つ、目的を達成するためには、常に壁が立ちふさがると、それを乗り越えるためには、知恵が必要だということだ。このようなことはぼくの人生でも活かしていきたい。

どもたちが危ないと感じたのは、「おかあさんの本能」なのでしようか。あれだけ必死にかくとうしたのは、子熊のために戦いぬいて生きようと思つていたからだと感じました。かり犬に、おなかや、せなかをかまれて、気が遠くなりそうになつた時、子熊のことを考えて、「死んではいけない。死んではいけない。」とお母さんの本能が、うみその奥の方できんでいた場面には、震える思いがしました。

ぼくは、とつさにお母さんがうかびました。お母さん、いつも命の全てをかけてぼくを守つてくれてからだ。ぼくはこうしたカモシカのとつさの判断に感心した。 他にも大ワシが近づいてきたとき、すぐにネズミサシの灌木林にかくれたり、カモシカたちが岩だなに追いつめられた時、その大将三匹が崖の氷の壁にドスンと体をぶつけるといふところもさすがだ。灌木林へにげなければ大ワシにつかまり元も子もない。また、崖の氷の壁に体をぶつけてにげ道をつくらなければ今までの苦勞も水のあわだ。このように、カモシカたちがこの地形やその特ちょうを理解して、それを活かしたということが生

いるんだと思ひました。 お母さん、すこいな。 自分の事よりぼくの事の方を大切に思つている。あの熊の親子も、ぼくとぼくのお母さんといっしょだ。人間も熊も関係なく、お母さん、すこいな。 ぼくは、お母さんにいっばい感謝して、自分の命を大切にしようと思ひました。 そして、命いっばい、今を生きたいと強く思ひました。 お母さん、いつもお母さんの中には、ぼくがいるよね。お母さんがいるから、ぼくは毎日がんばれるよ。お母さん、いつもありがとう。 お母さん、すこいな。

2017 今年の村のニュース

1 喬木村議会改革

村議会では、議会改革の一環として、議定例会の夜間・休日開催を村長に提言した。

全国的にも、少子高齢化、人口減少による議員のなり手不足が深刻な問題となっており、この試みは、メディア等でも取り上げられ全国から注目を浴びている。

村長は、議員のなり手不足問題の解消と多様な世代の村政参加の取り組みが、リニア等高速交通網の整備による変革を迎える村としても大きな課題ととらえ、趣旨を尊重し議定例会に同意した。

村議会では、十二月の定例会から一般質問や常任委員会審査などを平日の夜や休日に開催する。

2 椋鳩十記念図書館が「南信州図書館ネットワーク」に加入

今年七月一日より、椋鳩十記念図書館は「南信州図書館ネットワーク」に加入しました。飯田市、松川町、高森町、豊丘村、そして喬木村を含めた五市町村の図書館のコンピュータシステムをつなげ、利用者情報を共有することで各図書館所蔵の本や資料をどの図書館でも借りることができるようになった（南信州定住自立圏形成協定による制度）。

返却は基本借りた図書館ですが、ネット登録で予約・取り寄せ等もできるようになった。



3 公民館長就任

四月より前公民館長の後任として市瀬徹新公民館長が就任した。

三月をもって教員生活を終えられたが、郡外での勤務が多く村のことがよくわからないとの事でしたが、いろいろなお所に出かける事により、知って行くと思われ。公民館活動がのびのびと、また、多くの方の参加により、村全体に活気が出てくる様期待している。

4 テニス中学生団体戦で喬木中が北信越大会に出場

十一月四日(土)、福井運動公園テニス場(福井県)にて「北信越中学校選抜新人テニス大会・団体戦(兼全国選抜中学校テニス大会)」が行われ、喬木中学校男子八名(喬木スポーツクラブ所属)が出場した。

一致団結して臨んだ北信越大会。二位以内に入って全国大会を目指したが、残念ながら届かなかった。しかし、北信越大会のレベル



5 喬木少年野球クラブ 県大会初出場

喬木大会でブロック優勝、次の南信大会を勝ち抜き、飯田下伊那では十年ぶりとなる県大会の出場を決めた。

レベルの高い大会ということもあり、子供達の気迫と勢いが今まで以上に発揮され、最後まで諦めずに戦うことができた。しかし、南長野少年野球チームに六一七のさよなら負けとなっていました。

強豪チームとこれだけの接戦を繰り広げられたことはこれからの自信に繋がると思う。



村総合文化祭

十一月十八日・十九日の二日間(作品展示は十七日より三日間)、恒例の喬木村総合文化祭が行われました。

今年、喬木を有名にしてくださいポスターコンクールにて、「喬木のブーはくりん豚」の入選にちなんだスピンオフ企画として、二日目の芸能ステージには高木ブーさんのウクレレライブ&トークショーが行われ、多くの皆さんが観覧されていました。

作品展示は例年通り中央社会体育館を会場に三十五団体、芸能大会は交流センター前の特設ステージを会場に十一団体に参加いただきました。



初めての方大歓迎です。ご参加をお待ちしております。

ご来場いただいた皆様、ご参加いただいた各団体、文化祭運営にご協力いただいた関係の皆様のおかげですばらしい文化祭となりました。感謝申し上げます。

6 「ごみ処理施設「稲葉クリーンセンター」完成

南信州の新たなごみの焼却施設として、飯田市上久堅稲葉に「稲葉クリーンセンター」が完成した。これにより、ごみの分別内容が変更になった。

当施設は、焼却の際発生する熱で発電を行うとの事で、環境循環型社会に寄与している。



編集後記

年末商戦真っ只中。街はクリスマスを前に賑わいを見せている。師走に入り、今年も残すところあとわずか。この時期は何かにつけ、忙しさに追い回される。期待を寄せる。

わり映えない日々を憂いつつも、平穩無事で一日を乗り切れたことに感謝し、帰路につく。

一年を振り返り、今年の総括をしつつ、新年への抱負を温め、また多くの出会いがあるであろう新年に期待を寄せる。

霜月旬会

表裏占ふ風や散る紅葉
読経や亡き子を偲び冬に入る
大佛の背負ひし空や暮の秋
民謡の流るる宿や能登の秋
友どちと話も尽きぬ夜半の秋
初めての茶道一ぶく秋日和
奥山の茸の城へ二本杖
電線に鴉の高鳴き山晴るる

市橋 ヨリ
西元くにこ
田中 君子
村山たか子

冬薔薇ひと日の無事を祈りつつ
百年を生きる力や冬紅葉
鮫鱈の箸に崩るる汝の膳
たえまなく木の葉舞ひ来る露天風呂
蛙を飛ぶ蝗に子等の喚起かな
白菊を活けて暮色の影に座す
菊日和母と呼ばれて五十年
寺山のふっくら迫る黄葉かな
空耳の秋風にさえ頷きて
藍深き夕空残し帰燕かな
バス降りる故郷の蜻蛉の高い空
柿吊す里を斜めに航空路

松葉 孝子
秦 恭子
原 美恵
砂場 文子
吉川てる子
本山 栄信